

## 特別インタビュー

野球解説者・佐野慈紀氏に聞く!

いまどきの  
「メジャーリーグ」の見方プロ野球はもちろんだが、今年はメジャーリーグにも「注目」だ!  
ダルビッシュ投手や和田投手といった日本のスターが挑戦するメジャーの、  
いまどきの楽しみ方を野球解説者・佐野慈紀さんに聞いてきたぞ!

取材：石原翔輝、大西誠、許雅婷、坪倉篤志、三木裕司、水上雄介



## 「ポイントはマウンド」

—ズウ、今季メジャーデビューする日本人選手で通用する選手はいると思いますか?!

**佐野** おそらくみんな通用すると思います! 1年間投げてどれくらいの成績っていうのは巡り合わせもあるから未知数だけど、通用すると思いますよ。

—ダルビッシュ投手や和田投手など、日本球界を代表する投手が海を渡ります。いろいろ環境も変わって大変だと思うんですが、具体的には何が課題になるのでしょうか?

**佐野** まずいわれるのがボールの違いですよ。日本のものに比べてすごく滑るんです。でも、一番の課題は実はボールじゃなくてマウンドの違い。メジャーのマウンドは日本のマウンドに比べて全体的に硬いんです。硬いとピッチングのときに足を滑らそうとしても止まっちゃう。止まっちゃうと、本来よりリリースポイントが早くなってしまって、その分ボールが高めに浮いてしまう。これに気付けるかが重要ですね。

—フォームも修正しなくてはいけない?

**佐野** そうですね。上原投手とかは、映像で観てもらったらわかると思うけど、日本にいるときとメジャーに行くからとでは、大きく変わってます。いまはまるで手投げみたいになってると思うぐらいに。この間本人に聞いたら下半身がポロポロだとか。それぐらい土の

質っていうのが違うんです。メジャーではこういった部分に対応していかないとダメなんです。こういうところを注目してみたら、見方が変わって面白いんじゃないかな。

—ダルビッシュ投手たちが海を渡る今季は、初めてメジャーに触れる子どもたちもいると思います。「ここを見たらいい」といったポイントみたいなものがあつたら教えてください!

**佐野** メジャーリーグでは、どのバッターもバットを思いっきり振ります。1番バッターから9番バッターまで、見た目ちっちゃい選手でも思いっきり振る。もう、なんでこんな振るの? っていうくらいにね(笑)。もし見るんだしたら、バットスイング、各バッターのバットスイングの鋭さっていうのを見てほしいな。日本にはうまく打つバッターはたくさんいるけど、思いっきり振るバッターっていうのはあまりいないからね。

—ピッチャーではどうでしょう?

**佐野** ピッチャーに関しては、ストレートを投げるピッチャーが多い。ストレートもツーシームとかが主流だから、右に左に下に上にめっちゃくちや曲がるんです。だからストレートばかり投げるピッチャーが多い。あとはピッチャーは関係ないけど、やっぱり球場の雰囲気の違いとかも見てほしいですね。日本と全然違いますよ。メジャーの球場は建造物が絡まっていたりとか、やたら深かったりとか。あと、ファンサービスもすごいですね。

—その中でももちろん、日本人選手の活躍が楽しみです。

**佐野** そうですね。連続200安打の記録が止まってしまったイチロー選手なんかは、よく勝負の年と言われるけど、それでも昨季は180本打っているしね。これが例えば100本とかだったら、もうイチローも衰えたなって思うけど、180本以上打ったっていうのはやっぱりすごい。彼が今季どんなバッティングするのかも、楽しみです。

## 「日本球界のために」

—近年は、FAやポストティングによって、次々と日本のスター選手がメジャーに挑戦しています。スター選手が出て行くことによって日本のプロ野球の人氣がなくなってしまうのではないかと声も聞かれますが、佐野さんはこの現状についてどう思いますか?

**佐野** 僕はもっと行ってほしいと思っています。もっと選手がメジャーに出て行って、日本は危ないぞという危機感を持たせたほうが、もっと活性化すると思っています。今季はダルビッシュ、岩隈、青木、川崎、和田がメジャーリーグに行きます。この5人はどちらにしても注目されますよね。例えばダルビッシュが打たれたらみんな「え、ダルビッシュでも打たれるの」と、メジャーリーグのレベルの高さを感じるでしょう。

—たしかにそうですね。

**佐野** みんながすごいんだなという気持ち

になって、メジャーの試合を見るようになったら、日本のプロ野球はまったく面白くなく感じてしまうと思うんです。球場1つでも全部同じ形の球場。だからどこの球場に行っても感覚は一緒。球場に来てくれる人、テレビを見てくれる人に提供できるもののバリエーションが尽きてきているから、目新しいものがぜんぜん出てこない。これは野球界全体の問題だと思います。選手にとっても、スターが出て行くのではなくて、出て行かざるを得ない現状がある。この球場で俺はすごいホームランを打ちたいんだとか、この球場だからこういうプレーをしたいという魅力がない。だからトッププロに限らず、もう1つ殻を破りたいと思いつている選手でも、外に出てチャレンジし、帰ってきてからもっと日本球界を活性化してくれれば、プロ野球はいま以上に面白くなると思いますから、今後のことを考えてもどんどん積極的に挑戦する人が出てきてほしいですね。

—日本球界のためにも、ということですね。

**佐野** そうですね。やっぱり自分自身に可能性があると思って諦めずに努力することが一番大事であって、その努力の仕方を理解して選手が、スター選手になっていくんです。よく10年に1人とか、100年に1人とかって言われるけど、彼らが結果を残していくっていうのは偶然じゃなくて、必然だと思うからね。そういう選手になってもらうためにも、頑張ってもらいたいですね。

## プロフィール

**佐野 慈紀(さのしげき)**  
1968年4月30日生まれ(43歳)松山商高→近畿大工学部  
→近鉄(ファローズ(90年ドラフト3位)→中日ドラゴンズ(00年)→米独立リーグ他(01年)→オリックス・ブルーウェーブ(03年)→米独立リーグ(04年/05年引退)  
「ピッチャー投法」で知られる元近鉄の名セットアッパー。01年にはアメリカ球界にも挑戦し、05年に引退。現在は自らの経験を活かした鋭い目線で、野球解説者として活躍中。TwitterやFacebookを使った野球の魅力の新たな見せ方にも挑戦している。公式HP <http://www.sanoshighigeki.com/>